

欠坂葉子詩集

久坂葉子詩集

六興出版

久坂葉子詩集

昭和54年4月25日 初版発行

著者 久坂葉子

発行者 賀來壽一

発行所 株式会社 六興出版

東京都文京区水道二一九一二

郵便番号 一一二

電話 03(943)3431

振替 東京192448

印刷 図書印刷株式会社
製本 中央精版印刷株式会社

©1979 Kawasaki

落丁乱丁の本はお取り替え致します

0092-07029-9216

目次

りんご	9
罪深い女	11
冷いふとん	12
かえりみち	13
往んだ人	14
緑の日(午後)	16
逝った人に	17
月ともものみ	18
作家の死	20
酒場にうたえる	その一
酒場にうたえる	その二
酒場にうたえる	その三
拘置所	29
とうもろこしとひまわり	31

うつろなるまなこにうつる 32

予言 34

こんな世界に私は住みたい 36

雨のまち 38

むしばまれた…… 41

国と国とに 42

父と娘 43

春の短詩 45

古蘭よ 47

*

詩劇・かいがらのうた 57

戯曲・女達 89

戯曲・鉄と布と型 139

*

回想 173

オイルシルクの傘 174

ゆめ 175

夜ふけ 177

祖国 178

駅 179

死んだ人 181

ゆめのおみな(わたしはおのこ) 183

わたしは恋をした 185

わがこひびとよ 188

*

「日記」断章 189

原稿の中に残っていた二枚の文章

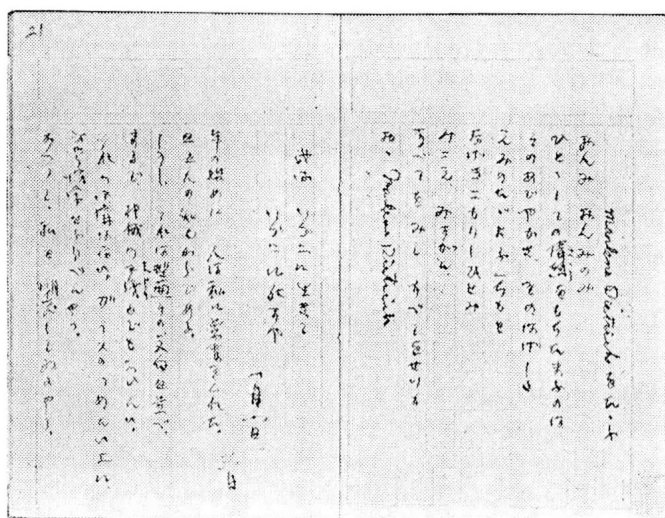
199

あとがき 富士正晴 203

久坂葉子詩集

詩

篇



りんご

りんごをかじりながらさむいみちをあるいた。
ゆうひがまっかになってしずむ。

きょうもいちにち、

のぞみもたず、ちからもわかず、

ただ、さみしさでいっぱいになって、

なにがそんなにさみしいのかわからぬままに。

まちかどにひがついた。

あたらしいとしがもうやってくるというのに。

あすさえもおそろしい。

——さみしさはますますだろ——

——くるしさにたえることができよう——
わたしのところに、

「あすこそは」というかんじょうがわいてくれたら、

——わたしはうれしいが——

りんごのたねはくろくひかっていた。

はあとのついたしんを、

おもいきりとおくへなげた。

(一九四七年)十二月三十日

罪深い女

南京玉を糸に通して

「明日はいい子になります」と、いった日は
手まりを溝から拾い上げ

「明日はいい子になります」と、いった日はいつだっだろう……
神様私は、お約束を破って

こんなにこんなに罪深い女になってしまいました。

一九四八年三月四日

冷いふとん

ねんねしよ、（しょうというイミ）

スタンドのコードをひっぱって、

冷いふとんに首を入れた時、

私はふっと、けしの花を思った、

けしの花を盗んで、しかられた、ひげの生えた隣の小父さん、

あの夜もやっぱり冷いふとんだった。

一九四八年三月四日

かえりみち

赤信号、

田舎船をほうばりながら、

鉄さびくさい、ふみきりにたつ、

突飛ばして来た電車、

この瞬間。

田舎船をかみしめながら、恐い、と思う、

青信号、

ほんと安心、

犬がまっ先に、線路を横ぎる。

一九四八年三月四日

往んだ人

その人は帽子ぎらいの人だった。

暑い舗道も、

つめたい路も、

帽子かぶらず歩いてた。

その人はじっとみつめてものをいう。

大陸の人達のことを、

悲惨だと――

哀れだと――

その人は大きく笑ってこう云った。